

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2022年度第2回短期大学会議教育改革ICT運営委員会議事録

- I. 日時 令和4年8月9日(火)14:00~16:00
場所 Zoom 会議室
- II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、後藤委員、大重委員、治京委員
及川先生(山野美容理容短期大学)、深町先生(和泉短期大学)、衛藤先生(別府大学短期大学部)
(事務局 井端事務局長、中村、山田)

III. 検討事項

1. コンソーシアムサイトの確認と紹介結果、今後の対策について

コンソーシアムサイトの紹介結果について、事務局から次のような報告が行われた。

- ① 昨年9月に開催した短期大学教育改革ICT戦略会議に参加の8短期大学の教員40名の方々に、6月下旬から8月上旬にGoogle Classroomに掲載の「短期大学コンソーシアムサイト」の活動内容について、更新したコンソーシアムサイトの閲覧案内を行ったところ、3短期大学で閲覧があったが、積極的に情報収集したようには見られなかった。
1校(今治明德短期大学)は、高齢者支援事業、地域価値発見支援事業、地域課題取組み情報共有の支援事業、利用ガイドの全てを閲覧、2校の内1校は、三重県志摩市との地域価値発見支援事業と地域課題取組み情報共有の支援事業と利用ガイド、もう1校は利用ガイドの閲覧にとどまっており、本協会が進める地域貢献支援事業を知るために積極的な閲覧がみられないこともあり、どのような感想を持っておられるのか、改めて尋ねることが難しい状況にある。
- ② 参加校の閲覧が進まない原因として、地域貢献支援事業のコンソーシアムサイトの作り方を見直す必要があると思う。本協会が何故、このような支援事業を短期大学教育の中で進めようとしているのか、各短期大学が興味・関心をそそるようなストーリー的な説明、いわゆる「表紙」を分かりやすく作り、誘い水を出すような仕掛けが必要と思う。
- ③ ドキュメンテーションを紹介しても、部分的になっているので理解ができないと思う。短期大学のプレゼンスを高める、学生の社会人基礎力の向上に、学外での体験活動を通じた社会実践の学びを提供していくために、非常に有益な教育プログラムであることを、主張していくための「表紙」を作る必要がある。

事務局からの報告を受けて、今後の対策について次のような意見があった。

- ① 各学会で私情協がコンソーシアムを用いて活動しているブースを持つなりして、草の根問答を通じてPRしてはどうか。例えば、栄養改善学会などで教育のDX化などの発表とコンソーシアムを繋ぎ合わせればアピールできるし、教員同士の名刺交換時にも紹介できると思う。
- ② 高齢者支援事業では、発表時間も限られている中で、日本教育情報学会、美容福祉学会で発表している。私情協のコンソーシアムは、常に紹介させていただいていることもあって、山野美容短期大学とつながりができ、現在共同で支援事業の活動を展開できるようになった。
- ③ 例えば、学会のサイトを見たら、クリックしたらすぐに中身が見られ、詳細が見られるが、Google Classroomのサイトはセキュリティ面からの制約で使いづらい。最初の入り口として私情協のホームページの一部に、コンソーシアムの活動を紹介する簡単なページがあり、詳しく見たい方はGoogle Classroomサイトにて紹介するようにはどうか。
- ④ タイル状にクラスが並んでいるところに、授業の概要・目的があると、分かりやすいのかなとは思った。
- ⑤ 表現の仕方、情報の開示の仕方という面もあるが、アピールする内容を前面に打ち出す方法があるといいのではないか。何かガイドラインみたいなクラスがずいぶん参照されているので、表紙に相当するようなクラスを一つ置くという手もあるのではないかなと思う。
- ⑥ 「私の授業」とか「生徒」という表現は、Google Classroom使う以上、枠組みに慣れて頂かないといけない。授業とか、ストリームの構成を変えられるかどうか、Classroomの担当者にきいてみる。確かに、最初にクラスが沢山できて、なかなかイメージが掴めない。今、クラスルームの中身が充実してきて素晴らしいと思っているが、そこまで行きつくのが大変かもしれない。Googleに聞いてみることは可能だが、期待できそうもない。
- ⑦ 最初の画面見るとクラスがずらっと並んでいて、タイルのようになっている。このタイトルの下の余白に、アピールのワード、写真など掲載できないか。
- ⑧ 余白部分の活用法として、利用者が希望する項目(自治体、高齢者・地域価値の支援事業など)を枝分かれ方式で掲載し、希望項目を押すと、例えば三重県との取組みの詳細につながるのか、できると見やすいと思う。

- ⑨ いづれにしても西岡委員に Google 担当者に変更が可能か打診することにした。その上で改めて考えることにした。

2. 今年度コンソーシアム事業の進め方について(学びの協働化を中心に検討)

学びの協働化に向けた対応について、事務局から概ね次のような活動提案が行われた。

- ① 高齢者支援事業について、本年度の後半に、実践女子大学短期大学部、山野美容芸術短期大学の学生が協働して高齢者にインタビューを行い、それをもとに動画を制作して、参加した高齢者、両短期大学で関心を持つ学生・教職員、自治体・自治会・babal lab 関係者に発表し、ネット上で若者と高齢者の交わりについて、感想を交換し合い、本事業の次への取組みに向けて課題を整理する。
- ② 地域価値支援事業について、本年度の後半に、大阪夕陽丘学園短期大学が自治体と連携してすすめる事業を中心に、別府大学短期大学部、和泉短期大学の学生が意見を出し合う。また、別府大学短期大学部、和泉短期大学ですすめる自治体連携事業について、意見交流する可能性を検討する。その上で、可能であれば、調査やコンテンツの制作などの役割分担の可能性を検討し、コンソーシアムとしての地域価値発見支援事業の枠組み、体制について試行し、課題を整理する。

事務局からの報告を受けて、今後の活動について次のような意見があった。

- ① 高齢者支援事業については、事務局提案のように進むことが難しい。前期中に実践短大で実際に動画づくりについて専門家を招き、講習を5回行った。その状況をオンデマンド化して、山野短大の学生に閲覧いただき、動画作りについてスキルアップができた。
後期は、学生がグループで5分程度の学校紹介の動画を作り、それをBABA lab の高齢者に見ていただきフリートーキングする。その上で、BABA lab の方たちが作ったYouTube 動画を見て感想を書き、それをもとにインタビューしていくというステップを踏めるといいかなと思っている。
- ② 地域価値発見支援事業については、二つある。一つは、真珠を食べようという事業を進めている。規格外の真珠は、使い物にならない。真珠の粉末は、実は体脂肪を落とすという効果が見つかっているが、食べられたものではないので、真珠を溶かしたエキスというのを本学で用意して、和泉短期大学、別府大学短期大学部でどういう利用ができるか、コンテストみたいにしてはどうかと考えている。
二つは、阿古屋貝の貝殻が赤潮の原因となつて、志摩市から何とかならないのというオーダーがきている。阿古屋貝を粉末にしてカルシウム剤にして、サプリメントにするというのは当然なのだが、機能性食品、あるいは、それをさらに飼料に使うなどの企画を3校でできたらと思っている。お菓子を作るとか、どうやって製品化にしているのか分からないし、SDGs と絡めるといっても、そこの突合せというのが山陽短期大学は弱いところがある。3校で、まずお互いを紹介し合い、真珠、あるいは阿古屋貝という、ターゲットを一つに絞ったほうがいいと思う。
- ③ とてもいいアイデアだと思う。実際 Zoom で学生が行うようにすれば、さらに盛り上がるかもしれない。Zoom は録画できるので、MP4 で録画し、トリミングするなりして短くして、動画で見られるような形にしておくとしらにいいかもしれない。
- ④ 今、スイーツにかけるとか、粉末にしていろいろ活用されているので、学生に呼び掛けて、いろいろと開発して再利用できれば授業でも可能と思う。学生もかなり興味を持つような内容ではないかなと思う。
- ⑤ ニュース性のある学びになるので、海外にも飛んでいくような話になりそうなので、これはかなり興味・関心をそそる話題になる。最初からうまくいなくても、学びを記録として動画録画しておき、私情協のコンソーシアムの中で紹介していく。
- ⑥ おもちゃに作るとかいうのであれば、何かコンテストをやれば学生が興味を持ち、主体的に動いてくれるかもしれない。粉末を個体にする方法が確立されたものがあれば、面白いかなと思う。食べ物のコンテストもやれば関心を持つと思う。

以上の検討を踏まえて、次回委員会で、三田委員、治京委員から具体的な協働案を提出いただき、本年度の試行事業の内容を確定し、学びの協働化を始めることにした。

3. その他(今後の日程)

今回は、9月15日14時に Google Classroom 画面表示変更等の調査報告、コンソーシアムサイトと本協会のホームページの掲載連携、学びの協働化の具体的な実施計画の作成について確認することにした。